

第6章 計画の推進

- 1 推進体制
- 2 進行管理

III 資料

- 1 三朝町生涯学習推進プラン（仮称）策定委員名簿
- 2 三朝町生涯学習推進プラン（仮称）策定委員会設置要綱
- 3 社会教育・生涯学習に関する町民意識調査結果
- 4 本町の生涯学習におけるこれまでの経過
- 5 教育委員会からの諮問文→策定委員会の答申文

（別記）

「生涯学習の町」宣言

わたくしたちは、豊かな緑、清らかなせせらぎ、そして湯けむりに恵まれた「ふるさと三朝」をこよなく愛し、いつも「しあわせ」を実感して生きることのできる人生と町づくりを生涯学習に求め

- ★ 健康で 笑顔のあふれる 町づくり
- ★ 心豊かで 高い文化の薫る 町づくり
- ★ 産業の振興で 活力のみなぎる町づくり

の実現をめざします。

そのため、町民憲章の精神をふまえ、生涯にわたって、いつでも・どこでも・自ら進んで学習を行い

- ★ し 社会の一員としての自覚と役割を高めつづけます。
- ★ あ あたたかい人間愛を育て、心のふれあいを深めつづけます。
- ★ わ 若さと健康を誇り、たくましく生きる力を養いつづけます。
- ★ せ 生業に励み、豊かさと潤いを求めつづけます。

ここに、町制施行35周年を記念して、三朝町を「生涯学習の町」とすることを宣言します。

昭和63年11月1日

議題（２）第４章「計画の方向性」について

◎ 「基本目標」、「基本施策」の検討

→ 今回協議内容を基に事務局で「基本理念」案を作成（第４回策定委員会で協議）

① 基本施策（三朝町で実施すべき又は実施したい事業や理念とは？）

② 基本目標（基本施策を踏まえ三朝町が目指す目標とは？）

(参考資料：委員事前照会事項)

三朝町で実施すべき又は実施したい事業や理念（案）

三朝町で実施すべき又は実施したい生涯学習事業や理念	理由
好奇心をかきたてる生涯学習事業	挑戦したい心を醸成する事業の提案
各世代に配慮した生涯学習	各世代に対応した事業の提案
毎日が前向きな気持ちになれる事業	気持ちの改善、生活の向上に資する事業
小学生のキャンプ	生きる力や感謝の心を育成したい
夏休みを利用したボランティア活動	
教育支援活動	学習支援等
人権教育事業	人との繋がり無くして人生無し。人を思いやる心、豊かな人間形成が重要。
スポーツ教育事業	健康無くしては生きがいを感じられない。体力維持や増進を図ることが重要。
家庭教育事業	幼少期からの身体と心の健全育成が重要
(理念・キーワードとして) ・学びの機会づくり(ライフステージ、ニーズに合わせた多様な学びの提供) ・学びを生かした地域づくり(学びを通じたつながりの創出・地域活性化) ・学びを支える環境づくり(図書館・公民館・学校・公園/連携・協働体制など)	アンケートを通して、学習機会については多様なニーズがあること、有効な情報発信が必要なこと、アクセスしやすい環境・居場所づくりが求められていることが読み取れたことから考えました。
(事業として) 健康の保持増進に向けた取り組みの強化 ・スポーツ活動・大会だけでなく、筋トレ、ロコモ予防、ヨガ・ストレッチなど ・年齢や性別、ニーズに応じて参加できるもの	アンケート結果から、また三朝温泉病院、鳥取看護大学・鳥取短期大学との連携が事業の強みとして活かせると考えました。
(事業として) 世代間交流を推進する取り組みの強化 ・地域の祭りや行事だけでなく、例えば健康マージャン、スマホ教室、地元の高校生(中学生)による子育て世代のサロン(看護大・短大の学生も参加)の開催など	昭和63年「生涯学習のまち宣言」を念頭におき、人材育成の観点からも、世代間交流は重要と考えました。
絆の力で地域は変わる⇔大人と子どもが地域でつながる ・各地区、村々で年間を通じて、昔からある行事に子ども達を参加させる。	過疎化、少子高齢化もあるが、地域の絆が失われているのは、みんなが行事に参加しなくなったことが一因。世話をする人達の意識を変えていく必要がある。
遊びから学ぶ生きるチカラ⇔ 自然の中で遊びを通じて子ども達の生きるチカラを育む ・ノコギリ、鎌、ナイフ等で木や竹を切る、加工する等の体験。親子参加型を基本とする。	自然は資源。子ども達の生きるチカラを身につけるフィールドである。 リーダーを発掘する、又は育てる。 →受け皿を準備する。
アクティブ・ラーニングの意識付け ・あらゆる行事(なじまないものは除く)のあいさつ等の中に、短くてもいいので意識付けの言葉を発し、刷り込む。	一方的に伝達する講義方式に加え、能動的に学習する意識を広く浸透させる。全ての年代に共通するもので、それぞれのやる気を引き出すことを考えて取り組む。